

## ■三六災害から50年の懸念

- 経年変化による、災害に対する危機意識の薄れ
- 異常気象等に起因する大洪水や大規模土砂災害の恐れ

## ■目指すべき伊那谷の将来像

- 地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりの実現
- 防災活動の推進による地域防災力の向上の実現

## ■三六災害50年実行委員会(平成23年度)



- 忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識
- 災害を風化させず、教訓として後世へ継承
- 関係機関の情報共有による積極的な啓発活動の推進

## 三六災害50年の事業展開

シンポジウム、パネル展示、防災訓練、座談会、現地研修会など60団体が100事業を実施。延べ約14,000人が参加



シンポジウム

6月19日 飯田文化会館 約1200名を動員



パネル展示(リレー式)

4月～9月まで伊那谷各地69カ所展示



防災訓練

ロールプレイング方式机上訓練(7月4日 大鹿村)



座談会(リレー式)

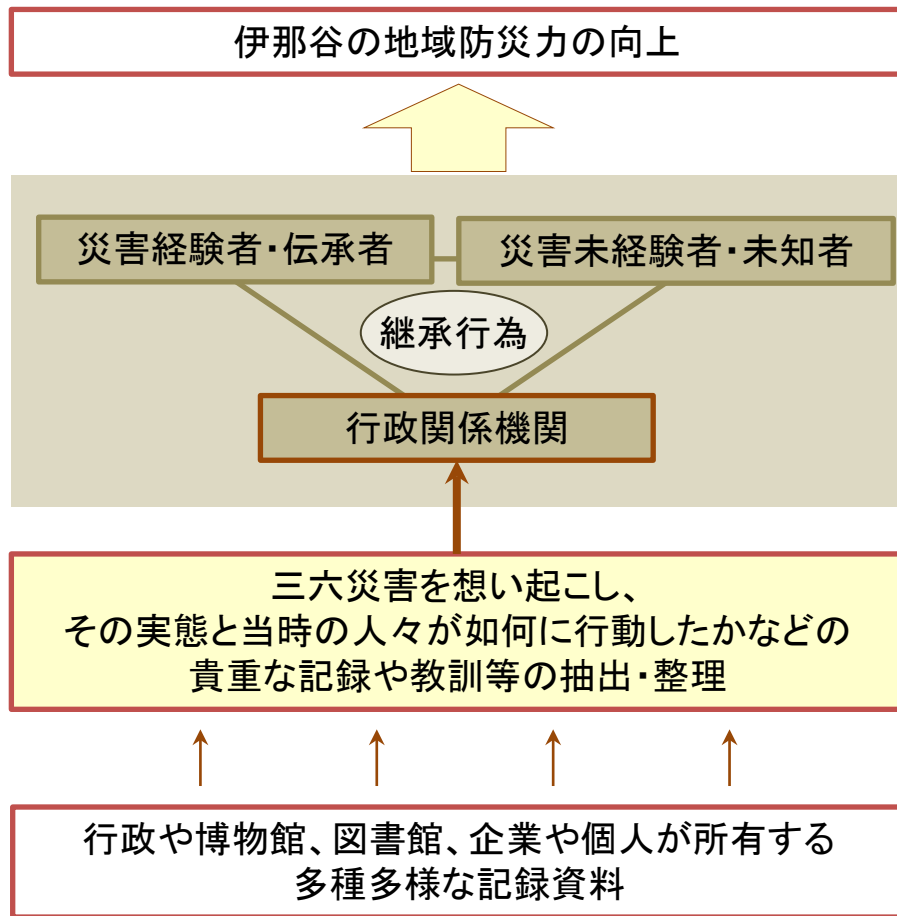
複数施設で「三六災害を語る座談会」を順に開催

## 三六災害50年実行委員会『声明』

伊那谷の地域防災力の向上は、自ら、地域から、そして行政との連携で

## 記録資料や取り組み実績を活用し将来に引き継ぐ(三六災害50年実行委員会声明より)

災害を語り継ぐ一助とするため、記録資料を地図情報化するなど、地域で幅広く活用されるための情報提供に努めましょう。



平成24年度は、三六災害50年事業で収集された既往資料から「地図情報化可能な記録資料の抽出・整理(約200項目)」に着手